シリコンを用いた補助具の作製

上田　昭仁　（山梨県）

はじめに

整形外科等、病院に勤務されていた先生方にはお分かりだと思いますが装具等を義肢装具メーカーに発注すると、かなりコストの高い物になってしまいます。

病院ですと療養費払いの適応になり患者様からは実質１～３割の金額で購入できますが、整骨院では全額患者様の負担になるため取り扱う先生は皆無に近い状況だと思います。

それならば、簡単な物は自分で作ってしまおうと考えてみました。

※ インターネットや文献で同等の物を作製している例を調べてみましたが特に記載されている方がいらっしゃらなかったので発表させて頂きますが、もし同等の物を作製されている先生がいらっしゃいましたら、ご指導お願いします。

症例１

踵部打撲の減圧の為のヒールパット

作製手順

用意するもの　①薄手の鉄板　②ヘラ　③シリコン　④定着液　⑤ビニール袋（厚型）⑥ラップ（張り付かない物）　⑦専用ガンになります。

作製

１ビニール袋にシリコンを充填する。

２定着液を袋に入れよく混ぜる

３生クリームを絞り出すようにしゴックリと形を整える

４ラップを上に被せて形を整える

５型取りをします。　※型取りは術者主導で行います。患者様の足を乗せて術者の手で圧をかけていきます。

（決して重心をかけさせない）

ここで最後のモデリングをしていきます。

６３０分後、ラップをゆっくり剥がして更にヘラで鉄板から剥がします。

翌日以降に来院された患者様にフィッティング加工して出来上がりになります。

横幅が出ないようにカットし靴下の中に挿入して使用します。こうすることで靴が変わっても常に装着していられます。

補足として痛みのある場所を少しくり抜いてあげると更に減圧されて痛みが改善されます。
子供の踵部骨端炎にも使用しましたが、こちらも痛みが改善されています。

アレンジ例を２つ程上げます。

① こちらは足底腱膜炎へのインソールで陸上部の長距離種目の患者様で足底部への衝撃を和らげる為に作製しました。程良い軟らかさでアーチへの当たりもマイルドなので装着していても違和感がなく立脚相でのアーチの形状を上手くカバー出来ているようです。

② 肘滑液包炎へのエルボーパット。
学校の廊下で滑り肘をついて転倒し滑液包が腫れてしまい、翌日サッカーの試合があるとのことでパットを作製し装着させました。滑液包の部分を少し厚めに作製し外部からの衝撃を周りが緩衝してくれるので痛みを気にせずプレー出来たとの事です。

以上となりますが、最後にメリットとデメリットを記載します。

メリット
① 非常に安価である。
（１つ作製あたり２００円程度）
② 作業時間１０分程度
③ 翌日には仕上がるので早く装着できる。
④ フリーカットでどんどん切り刻める。

デメリット
① メーカーと違い採寸データの保存が出来ないため全く同じ物が作れない。

※これこそが最重要課題なのですが・・・

装具や補助具といったものはイメージを膨らませればまだまだ無限に作製できるものである。これを機によりたくさんの部位に適応できる物が作製できると良いと思います。

シリコンを用いた補助具の作製

山梨県　　上田整骨院
上田　昭仁

はじめに

- 整形外科等、病院に勤務されていた先生方にはお分かりだと思いますが、装具等を義肢装具メーカーに発注するとかなりコストの高い物になります。
- 病院ですと療養費払いの適応になり患者様からは実質１～３割の金額で購入できますが整骨院では全額負担となり敷居の高い買い物になるため取り扱う先生は皆無に近い状況だと思います。
- それならば、簡単なものは自分で作ってしまおうと考えてみました。

※　インターネット等で同等の物を作製している例を調べましたが記載がなかったので発表させていただきますが、もし同等の物を作製されている先生がいらっしゃいましたらご指導お願いします。

踵部打撲の減圧の為のヒールパット

作製手順

必要な物

① 鉄板（薄型）

② ヘラ

③ シリコン

④ 定着液

⑤ ビニール袋（厚型）

⑥ ラップ（張り付かない物）

⑦ 専用ガン

① ビニール袋にシリコンを充填する。

③ 生クリームを絞り出すようにザックリと形を作る。

② 定着液を袋にいれよく混ぜる。

④ ラップを上に被せて形を整える。

⑤　型取りします。
型取りは術者主導で
行います。

患者様の足を乗せて術者の
手で圧をかけていきます。
（決して重心を
かけさせない）

ここで最終的なモデリング
をしていきます。

⑥　30分後、ラップを
ゆっくりはがし、
ヘラで鉄板から
剥がします。

翌日以降に来院された患者様にフィッティング加工して
出来上がりになります。

横幅が出ないようにカットし靴下の中に挿入して使用します。
こうすることで靴が変わっても常に装着していられます。

アレンジ例を２つ程上げます。

①　足底腱膜炎へのインソール

陸上部の長距離種目の患者様で足底部への衝撃を
和らげるために作製しました。

②　肘滑液包炎へのエルボーパット

学校の廊下で滑り肘をついて転倒し滑液包が腫れてしまい
翌日サッカーの試合があるとのことでパットを作製し
装着させました。

※　こちらは作製方法が違います。

以上となりますが、最後にメリットとデメリットを記載します。

メリット

① **非常に安価　１つ作製あたり２００円程度**

② 作業時間１０分程度。

③ 翌日には出来上がるので早く装着できる。

④ フリーカットができるのでどんどん切り刻める。

デメリット

① メーカーと違い採寸データの保存ができないので

全く同じものは作製できない。

※　これこそが最重要課題なのですが・・・

装具や補助具といったものはイメージを膨らませれば
まだまだ無限に作製できるものであると思っております。
これを機により沢山の部位に適応できる物が作製できると
良いと思います。

御清聴ありがとうございました。